



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

110

「まちなか散歩で味わう旅気分」



文月 齊 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
 今年も桜の季節がやってくるね。卒業シーズンを迎え、例年なら卒業旅行に訪れる旅人でも、この一年はほとんど旅らしい旅には出られなかったけど、面白いもので函館というところは旧市街をちょこっと歩いただけで旅を出る気分になれるんだよ。というのも、160年前開港したばかりの函館の街にはアメリカやオランダ、フランス、ロシアなどじつに16カ国の領事館が置かれていて、街のつくりや建物のデザインに少なからず影響を与えていたんだよ。度重なる大規模な火災で多くのものが消失してしまっただけで、防火対策で導入された幅の広い道や、外国風の意匠を受け継いだ建物がいまでも点在しているね、そうしたらよっと日本っぽくない街並みのおかげで、その辺をひと歩きするだけでいつでも手軽に旅人気分にしてもらえるってわけさ。

古い建物は今でも現役で使われている例が多く、重厚なコンクリート造りの銀行だった建物が会社のオフィスや、ホテル、カフェとして再利用されているし、なかには教会だった建物が使われている例もあるんだ。

観光の散策地としても人気がある函館の旧市街地、元町。路面電車が走る電車通りから函館山側に一本入った通り沿いに、一目で教会建築と分かる建物があるんだ。パステルピンクと白のツートンカラーで塗り分けられたかわいらしい木造の建物なんだけど、もしかしら君も見覚えがあるんじゃないかな。昭和55年頃からお土産屋さんや喫茶店として利用された、ウエディングチャペルとして約2500組の結婚式を挙げていた時代や、最近では超豪華列車「TRAIN SUITE 四季島」でも腕をふるうシェフがフレンチレストランを営んでいたこともあった建物なんだ。

もちろん元々は真正正銘、教会として使われていた建物で、使っていたのはプロテスタント系独立教会の日本基督教会相生教会。明治16年に今と同じ場所に最初の教会が建てられ、その後度々大火に巻き込まれながら昭和9年に建てられたのが現在の建物なんだって。当初は日本基督教一致函館教会という名称だったらしく、明治時代初期に遺愛女学校の教師をしていたサラ・C・ミス女史も伝説をお手伝いしていたそうだよ。

え、あまり聞き覚えのない名前だっけ？ 北海道における女子教育の母とも言える人で、札幌にある北星学園を創立した人だよ。当時の講師陣は5千円札の肖像画で知られる新渡戸稲造氏や、「少年よ、大志をいだけ」のクラーク先生の教えを直接受けた大島正健氏、植物学者の宮部金吾氏など、超がつくほどの豪華な顔ぶれだったんだ。

おっと、話が逸れてしまったね。それでこの元教会だった建物、今は何に使われているかというと、1階にカフェが2店舗、2階はエスニック系のアパレルショップになったんだ。エスニックのお店の名前は「VERYCO/ヴェリコ」。エスニックと聞くとついいつい東南アジアを思い浮かべがちだけど、本来は「民族の」という意味があって民族的なデザイン全般を指すものとショップのオーナーが教えてくれたよ。なるほど、たしかに店内には東南アジアだけでなくメキシコなど中南米の雑貨なんかも取り扱われている。見てみるだけでも楽しくなって、君も結構ハマるんじゃないかな。男女兼用で着られそうな服もあるし、幅広い年代の人が着られそうな服がそろっているんだ。オーナーによれば、エスニックは着る人の歳を選ばないんだって。そうか、日本の着物もそうだけど、そもそもが民族衣装的な要素があるわけだから、年齢は関係ないよね。オーナー自身も、自分がお婆ちゃんになってもずっと着ていられるデザインだからと惚れ込んでいるので、お店で扱っているんだってさ。君も料理だけでなく、ファッションのほうでもエスニックを極めてみたら？

教会建築も楽しめるし、1階のカフェの絶品焼き菓子も楽しめるので、のんびりと旅ができるようになったら訪れてみるといいよ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索